

ベースに全クラスでワープロソフトや表計算ソフトの活用から動画編集、Webページ作成など多岐にわたる授業を展開している。



【課題研究】

「問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる」

三年次に各生徒が自分の課題解決の手段を身につけるために各講座を選択し、自ら取り組む授業である。これは平成三年頃から本校でも実施されているが、実施当時はワープロや第2種情報処理技術者対策など資格取得のための数講座が設置されているだけであるが、現在では簿記、情報処理技術者、販売士、表計算などの資格取得から生活教養、調査研究、経営分析・投資と多岐にわたり、また、平成二十二年度の調査研究では「七日町通りの活性化について ―イベント企画上の課題とスイーツ開発を中心として―」をテーマにフィールドワークを取り入れた授業が展開された。



「創立百周年に寄せて」

本田 幸江（旧姓伊藤）（昭和六十年度卒）

若松商業百周年、誠におめでとございます。

私が入学したのは、今から約二十五年前、それまで男子一クラスだけだった情報処理科が初めて男女共学クラスになった年でした。

今のようにパソコン学習などがなかった当時の情報処理の授業といえは、フォートランやコボルといったプログラミングの学習や、フローチャート作成が主でした。

情報処理実習としては、作成したプログラミングをもとに専用の機械で、カードや紙テープにパンチ（せん孔）し、それを大型電算機に入力させ処理するといったもので、今にして思えばパソコンの前の時代の学習だったように感じます。

当時の先生も「これからは、このような大型電算機の時代は終わり、パソコンですべて処理できる時代になる」とおっしゃっていましたが、現代社会におけるコンピューターの役割は、当時の予想を遥かに超える程目覚ましい発展を遂げ、私たちの生活になくはならないものとして確立されています。

また、当時は和文・カナなどのタイプライターが女子の必修取得科目でもあり、他の検定試験同様、習得すべき大事な検定試験もありました。文章作りに欠かせない、今でいうパソコンのワードの元の勉強にあたると思います。

時代の流れと共に、行われなくなった学習も、他にもあると思います。が、その時代その時代で必要とされる学習や資格取得に向けて、在校生の方々もこの歴史ある若商生としての誇りを持ってがんばって下さい。

また、各方面で活躍されている諸先輩方に続き、社会に大きく貢献できる人になって欲しいと思います。

困難な事にぶつかった時などは、「若商節」を歌ってみて下さい。きっと乗り越えるぞという力がわいてくるはずです。